

コア・プロジェクト 「先3」研修会、本格始動です！！



「先生による、先生のための、先回り研修会」題して「先3＝サキサン」。それは、実社会と学校関係をリチューニング、明るい未来を待ち伏せし、おもしろくタメになる学びづくりの知恵探し。昭和女子大現代教育研究所と電通 アクティブラーニングこんなのはどうだろう研究所がタッグを組み、三菱みらい育成財団の助成を受け本格始動です。「知ればすぐに動き出したい」先3は、それぞれの世界の専門家（マスター）の「生の声」を手掛かりに、学びのヒントを探ります。本当に大事なことは？この先もっと求められることは？その本質はどこ？マスターの語りをもとに「日々の授業は、どう役立ってる？」を探り、明日の授業を探究です。そんな先回りに必要な「対話・批判・論理・創造」の4つのチカラを、異業種の人々との対話をもとに筋トレする、そんな先3プログラムをご紹介します。

VOL1 教育でしか先手は打てないから「先回り」先生になりませんか？対話：対話（2023年10月21日）ゲストは、日本を代表するアーティスト、京都芸術大学教授の樺昇さん、クリエイティブディレクターのキリーロバ ナージャさん、そして先3プロデューサー倉成英俊と緩利誠（本研究所副所長）。好奇心を大切に、遠い世界へ思いを馳せる、他者との「対話」を通し世界を見つめる新たな眼差しを学ぶレッスン。**VOL2 学校で学んだこと、最前線でどう生きる？あたらしい職業図鑑2023：論理**（2023年11月25日）ゲストは、発明家の高橋鴻介さん、起業家の片石貴展さん、MCはプランナーの飛田ともちかさん。ほかにも動画でAIエンジニア、youtube作家など他「学校でこれを学んだから、今こうなった」といった確認の思考ルートが、魅力的な語りでも論理的に展開。学校の学びは活かし方のレパートリーを知ること、無限の可能性あり。**VOL3 先生だったら、どう解く？〇〇問題から考える、課**

題発見最前線：創造（2023年12月16日）ゲストは、日本NPOセンターの上田英司さんと、三本裕子さん、MCは先3プロデューサー倉成英俊。「課題ラボ」の最前線課題20からの選りすぐりに、先3メンバーが対話を通し課題解決に挑みます。専門性を活かしたアイデアが解決案の起爆剤。**VOL4 苦手意識がポジティブに変わる！？非難でもない論破でもない「批判的思考」って？：批判**（2024年1月27日）ゲストは、エスノグラファーの神谷俊さん、プランナーの野田千尋さん、コピーライターの館林恵さん、MCは先3プロデューサーの緩利誠。批判的思考・クリエイティブシンキングの秘訣を、プロのお仕事から探ります。批判的思考って、本当は、ポジティブでクリエイティブ、そんなネガポーターに気づきます。**VOL5 良いところはみんなで探しあおう！先生たちの「技」発見会：先生たちのアクティブデザイン**（2024年2月24日）ゲストは、高校教師の青木幸子、ゲームデザイナーの大山徹さん、ITコンサルタントの関島章江さん、MCは先3プロデューサーの緩利誠。オリジナル授業、クリエイティブな作品、ビジネス創出の契機、リアルな活動が気づきをインスパイヤーします。

先3で鍛えた力をもとにワクワク・ドキドキ授業にチャレンジ。そんな教師たちの燃え上がるパトス、只今、日本を席卷中！

（文責：青木・緩利）



現代教育研究所では研究員を募集しております。
ご興味のある方はHPからご応募ください。
<https://content.swu.ac.jp/iome/>



Newsletter vol.11 2024年3月31日発行
昭和女子大学 現代教育研究所
〒154-8533 東京都世田谷区太子堂1-7-57
Tel: 03-3411-7391
Mail: kyoikuken@swu.ac.jp
発行人：友野 清文



2023年度 昭和女子大学 現代教育研究所
押谷由夫先生 公開講演会
「これからの社会を心豊かに生きる子どもたちを育てる」
日時 2023年8月26日(土)13:30～16:30(12:30受付開始)
会場 昭和女子大学8号館6階 コスモスホール ※ハイフレックス開催

21世紀も四分の一が過ぎ、AI・生成AI・経済格差など、地球規模の課題への対応が求められる時代になりました。その中で教育は、22世紀を見据えながら、未来の社会を担うことのできる資質・能力を備えた人間の育成を行うことが求められます。

今回の講演会では、道徳教育を中心としながら、広く教育改革・学校改革に取り組んでこられた押谷由夫先生から、これからの教育の展望や子どもを育てる方策などについて語って頂きます。「心のノート」の刊行や「道徳の教科化」で中心的存在となされた先生の、40年以上にわたるご研究と実践に基づいたお話から、多くの示唆が得られるに違いありません。広く教育・学校・子どもの問題に関心を寄られる多くの方のご参加をお待ちしています。

右記のQRコードまたは当研究所ホームページからお申し込みください。
現代教育研究所HP <https://content.swu.ac.jp/iome/>
申込締切: 8月17日(木) 学生の申込も歓迎します。

イベント報告 EVENT REPORT

押谷由夫先生 公開講演会（2023年8月26日）

研究所では創立以来、毎年の年度末に「研究フォーラム」を開催してきました。

第1回は2015年2月28日の「現代教育研究所開設記念フォーラム」で、テーマは「次期学習指導要領改訂の理念と課題—教育課題への大学・教育機関等との連携—」でした。これは「第8回昭和女子大学大学院人間教育学専攻フォーラム」も兼ねており、大学院人間教育学専攻で行ってきたフォーラムを、研究所が引き継ぐという意味合いがありました。そこには、「4年制の初等教育学科」「大学院人間教育学専攻」「現代教育研究所」を立ち上げられ、これらを一体のものとして展開させようとする、初代所長の押谷由夫先生の強い思いがあったと言えます。

その後研究所単独のフォーラムとなり、形を変えて行ってきましたが、今年度は、押谷先生の公開講演会として開催しました。開催にあたっては、本研究所は2014年11月に設立され、来年度で10周年を迎えることから、今後の活動について考えるために、初心に立ち返ることが必要であると判断し、本研究所の創設者である押谷先生のお話を伺いたいという思いがありました。同時に、日本の学校教育は新学習指導要領への移行がほぼ終わった時期を迎えているとともに、「コロナ後」の様々な動きが見られることから、これからの教育の方向性について考える場にしたいという思いもありました。

押谷先生は、現在は武庫川女子大学大学院教授ですが、道徳教育研究の第一人者で、1990年代以降、文部省教科書調査官として、日本の道徳教育を牽引されてきました。特に『心のノート』の刊行や「道徳の教科化」では中心的役割を果たされました。一人の研究者であり実践家として、40年にわたるご経験を踏まえての示唆に富んだお話が伺えるという期待もありました。

講演会は、8月26日(土) 午後に、本学のコスモスホールで行いました。対面参加とオンライン参加を併用したフレックス形式として、合わせて約80名が参加されました。

ご講演の演題は「これからの社会を心豊かに生きる子どもたちを育てる—VUCAな時代を生き抜く道徳力を育む—」でした。

お話では、新学習指導要領や、中教審答申「『令和の日本型教育』の構築を目指して」、第4期教育振興基本計画、経済産業省「未来の教室」、OECD「ラーニング・コンパス」などで示されている教育の方向性がまとめられた上で、押谷先生の道徳教育の構想が語られました。それは「生命の教育」から出発し、「自然」「崇高なもの」との出会いを経て、地域や社会の課題へ協働的に取り組む姿勢を育成する、という極めて体系的な内容でした。

同時に、道徳教育の視点から、各教科の内容、そして「人間観」「指導観」「評価観」を見直すことで、教育本来のあり方が見えてくると指摘されました。

個人的には、これまで断片的には知っていたことが整理され、その上で、まさに「押谷道徳教育学」の体系に触れることができました。

およそ2時間にわたるご講演でしたが、それぞれの参加者にとっても、大変貴重で示唆的なお話になったと思います。

講演後には、ささやかな交流会を設け、親睦を深めました。

（文責：友野）

活動報告 ACTIVITY REPORT

「私学教育研究プロジェクト」

ここ数年、本プロジェクトは、私学教員の育成についてのセミナーを開いてきました。コロナ禍の影響で開催が困難な時期もありましたが、オンライン方式も取り入れながら、何とか継続してきました。

今年度は、11月26日に「私立学校教員の採用と研修をめぐって」をテーマとしたセミナーを開催しました。

講師は、石川一郎氏（聖ドミニコ学園カリキュラムマネージャー）と山崎吉朗氏（一般財団法人日本私学教育研究所所任研究員・一般社団法人日本外国語教育推進機構理事長）のお二人でした。今回は対面開催でしたが、私学関係者を中心に、30名近くの参加申込がありました。

石川先生は、現代教育の流れとして「SDGs」とOECDの「ラーニング・コンパス」を紹介し、「Well-Being」が目標とされていることの意義を強調されました（「ラーニング・コンパスは8月の押谷先生の講演会でも紹介されました」。「Well-Being」は訳しづらい言葉ですが、「自分について広く、深く理解する」「他者と仲良くやっていく」「自己管理能力やセルフコントロール力の習得」などを意味しています。その上で、「知識理解」や「論理的思考」を踏まえた「創造的思考」が重要であると述べられました。教員採用については、ともに仕事をする仲間であるという「パートナーシップ」の意識が重要であり、育成にあたっては、「教師のワークライフバランスの重視」「授業を中心とした研究活動」「生徒の支援者」といった視点が求められると指摘されました。

山崎先生は、日本私学教育研究所が実施してきた教員研修会の

状況を、具体的なデータを含めて紹介されました。私学教員は、初任者研修や中堅教員研修等の法定研修の対象には含まれていないが、「公立に準じる」形で実施してきたこと、また「学校経営研修会」「教育課程研修会」等の課題別の研修会も行っていることに触れられました。そして更新講習廃止後の研修についても、文部科学省の議論は専ら公立学校を念頭に置いたものであり、私学は改めて研修のあり方を考える必要があると指摘されました。また同研究所が設けている「依託研究員制度」にも触れられ、教員が個人の資格で自由に研究できる場があることを強調されました。

質疑応答では、「私学教員の研修が公立と異なる点は何か」「私学教員には広報（生徒募集）の役割も求められるのではないか」といった質問・意見等が出されました。

少子化の進行によって、私立学校の経営の厳しさは増していますが、そのような時であるからこそ、志と信念を持った私学教育が必要です。私たちのプロジェクトは本当にささやかなものですが、今後も私学問題を考え、情報交換ができる場を創っていきたく考えています。

（文責：友野）



「英語教育研究プロジェクト」

英語教育研究プロジェクトは、2023年11月18日（土）に「英語教育サロンVol.1：小学校での指導編～児童主体の授業～」というタイトルで、16名の参加者（対面9名、オンライン7名）と今年度から開始のイベント「英語教育サロン」を開催しました。

このイベントは、英語教育に関心を持たれる参加者の方々が、日々の英語の指導現場において感じている悩みや疑問を、リラックスした雰囲気の中で共有し解決することを目的に企画しました。第一回目は、「小学校での英語活動の指導方法」をテーマに設定し、昭和女子大学附属昭和小学校で教壇に立たれている幡井理恵先生を講師にお迎えし、2つのパートに分けて実施しました。第1のパートでは幡井先生から実践の話をお聞きし、その後第2のパートでは事前に参加者の方々からいただいた質問やその場でお尋ねのあった質問を幡井先生に直接お聞きしたり、グループに分かれて参加者同志の意見を話し合う時間としました。

第1パートの幡井先生のお話では、附属昭和小学校におけるこれまで30年間の英語教育の歴史とその現状についての説明がありました。その中で、「英語ができれば良い」のではなく「英語を使って何ができるのかを大事にされている」ということと、「社会や世界に目を向け、自分の意志で人や情報とつながりを持ちながら、進んでいける人を育てたい」と仰っていました。これらの点は現在の日本における英語教育において重要視されるポイントであると痛感しました。

そして、近年では、CLIL (Content and Language Integrated Learning、内容言語統合型学習) の概念を用い、英語を媒介と

しつつ音楽、図工、体育を学ぶe-MAPと言うプログラムに取り組みされているとのお話がありました。加えて、昭和小学校では6段階の「英語科の目標」が設定されており、特に5・6年生には自己内省（ふり返り）をさせてメタ認知能力や自己効力感を高める取り組みをされていることも紹介されました。

その後、参加者からの質問への回答をいただきました。例えば、「どの程度英語で授業をするのか」について、昭和小学校では英語の耐性は80%はあると見ているとのことですが、CLILのように内容が難しい場合は日本語で伝えることも可能とされており、インプットとアウトプットの質と量を考慮されているとのことでした。さらに、文字に強い子と音に強い子がいることから、強い面を有効活用していくことが必要であるという話もありました。そして、グループに分かれての話し合いでは、オンライン参加のグループにも幡井先生がZoomで参加され、それぞれから意見交換がなされて大変有意義な時間となりました。

2024年度も英語教育について話し合うイベントを実施していきたいと考えています。是非ご参加ください。（文責：高味）



「理科教育研究プロジェクト」

理科教育研究プロジェクトは、今年度4回の公開研究会を実施し、のべ54名の方が参加しました。特に教材開発が進んだ2つのプログラムについて紹介します。

①5月13日（土）プラネタリウムドーム作り

講師：安西巻子氏（NPO法人ガリレオ工房）

昨年度、初等教育学科の学生が、千葉県館山市で行ったプロジェクト活動で新聞紙エアドームづくりを成功させました。送風機で風を送って膨らませたドームの中に人が入ることができます。このアイデアをもとに、新聞紙と障子紙とでドームを作り、プラネタリウムの光を投影できないか検討しました。作ったプラネタリウムをすぐに投影したらいろいろな発見につながるのではないかと考えたからです。ドームの外側から遮光のために銀色のエマーゼンシーシートをかけました。このシートは100円均一でテント用のシートとして500円程で販売されています。試した結果、障子紙の方がはっきりと星座の形を映し出すことができることが分かりました。きれいな星空が天井に映る様子に参加者は感激の声を上げていました。

②11月3日（金）14時～16時

講師：市村賢一氏（エンジニア） / 星名由美（現代教育研究所研究員）

昨年度、本プロジェクトで制作したマイクロビットのマニュアルの冊子を使って、その後の展開を検討しました。昨年度は扇風機を回すプログラムを考えてきましたが、最近、テーブルLEDが手軽に手に入るようになったので、この利用を考えました。テーブルLEDは好きな長さにカットして使うことができます。ちょうどクリスマスシーズンが始まる頃だったので、手をたたくと光るクリスマスツリーなど、華やかな作品がたくさん生まれました。光らせるだけでなく、一緒に音楽を鳴らす作品もありました。後日ですが、講師の星名先生が子どもたちを対象に実施する科学工作教室に、研究会に参加した人も数名参加し、より実践的な検討がなされました。教室は大成功だったことから、私たちの考えたプログラムの有用性を証明することができました。（文責：白敷）



発行物案内 PUBLICATION INFORMATION



教育課題研究グループ
『EduMate vol.8』：
昭和女子大学教職課程研究報

【特集】高等学校における新設教科目
新課程高校国語教育・国語科教師教育の活性化に向けて
～「対話型模擬授業検討会」によるブレイクスルー～
「公共」が社会参画力を育むために

専任が語る
「ジェンダー問題」と「トランスジェンダー問題」
コロナ禍の学校事情
洗脳と教育の分水嶺

教育の最新事情
型とその伝承、そして教育～わかるの体得をめぐって～



昭和女子大現代教育研究所
紀要第9号

本書の内容

論文……………8本
研究ノート……………4本
実践報告……………2本

ご希望の方は研究所までお問い合わせください